

沿革

明治 30年（1897）6月 ● 京都帝国大学設置の勅令が交付され、分科大学として医科大学を置く旨制定される

32年（1899）7月 ● 医科大学開設 医学科設置（内科学2講座・外科学2講座）

9月 ● 医科大学附属医院看護婦見習講習科開設（1916年3月 看護婦講習科に改称）

12月 ● 医科大学附属医院開設 医科大学附属医院規程制定
内科、外科で診療開始

34年（1901）9月 ● 婦人科、産科で診療開始（1901年6月 婦人科学産科学講座設置）

内科観察室（1929年4月 隔離室に改称）業務開始

35年（1902）4月 ● 眼科診療開始（1901年6月 眼科学講座設置）

36年（1903）1月 ● 小児科診療開始（1902年5月 小児科学講座設置）

皮膚病梅毒科診療開始（1902年10月 皮膚病学梅毒学講座設置）

耳鼻咽喉科診療開始（1905年3月 耳鼻咽喉科学講座設置）

37年（1904）3月 ● 精神科診療開始（1902年9月 精神病学講座設置）

39年（1906）6月 ● 整形外科診療開始（1906年4月 整形外科学講座設置）

42年（1909）4月 ● 狂犬病治療研究室設置

5月 内科学第三講座設置

44年（1911）10月 ● 医科大学附属医院産婆養成科設置

大正 8年（1919）2月 ● 帝国大学および学部が制定され、医学部設置医科大学附属医院を医学部附属医院に改称

11年（1922）3月 ● 看護婦産婆養成所設置（看護婦講習科、産婆養成科を廃止）

12年（1923）4月 ● 癩特別研究室設置

昭和 2年（1927）7月 ● 外科学研究室、整形外科学研究室、手術場を竣工

6年（1931）3月 ● 婦人科学産科学教室および病舎を竣工

8年（1933）5月 ● 食餌療法研究室設置（1938年7月 栄養治療室に改称）

9年（1934）3月 ● 耳鼻咽喉科教室および病舎を竣工

7月 ● 泌尿器科診療開始（泌尿器科学講座設置）

13年（1938）6月 ● 癩特別研究室を皮膚特別研究室に改称

11月 ● 中央レントゲン室を理学的診療室に改称

18年（1943）5月 ● 歯科診療室設置（1949年5月 口腔外科学講座に改称）

19年（1944）8月 ● 理学的診療学講座設置

20年（1945）4月 ● 医学部附属医院厚生女学部（看護婦養成施設）設置

22年（1947）9月 ● 京都帝国大学を京都大学に改称

23年（1948）5月 ● 医学部附属医院厚生女学部で専攻科設置

24年（1949）5月 ● 新制京都大学が発足

医学部附属医院を医学部附属病院に改称 理学的診療学講座を放射線医学講座に改称

口腔外科学講座設置 看護婦養成施設は医学部の附属となる

26年（1951）3月 ● 看護婦養成施設を看護学校に改称 医学部附属病院厚生女学部専攻科を廃止 医学部附属看護学校に改称

27年（1952）9月 ● 医学部附属看護学校助産婦科設置

29年（1954）4月 ● 医学部附属看護学校助産婦科を医学部附属助産婦学校に改称

31年（1956）4月 ● 麻酔科診療開始（1955年7月 麻酔学講座設置）

32年（1957）4月 ● 皮膚特別研究室を皮膚病特別研究施設に改称

33年（1958）2月 ● 中央診療棟竣工

34年（1959）4月 ● 4月医学部附属の学校施設として、衛生検査技師学校設置

事務部に管理課、業務課の2課を設置

37年（1962）4月 ● 薬剤部設置

39年（1964）3月 ● 外来診療棟竣工

昭和 39年（1964）4月 ● 脳神経外科診療開始（脳神経外科学講座設置）

41年（1966）3月 ● 第一病棟竣工 ヒューマン・カウンター室設置

42年（1967）3月 ● ベータトン照射室、高圧酸素治療室が完成

4月 ● 老年科診療開始（老年医学講座設置）

6月 ● 検査部、手術部、放射線部、救急部、材料部を設置

43年（1968）7月 ● 人工腎臓室業務開始

8月 ● 未熟児センター業務開始

12月 ● 医療法承認病床数 1,100床になる

44年（1969）4月 ● 理学療法部設置

45年（1970）3月 ● 外科系総合病棟、サービスサブライ棟を竣工

5月 ● 中央情報処理部設置

47年（1972）4月 ● 医学部附属臨床検査技師学校（3年制）設置

48年（1973）3月 ● 衛生検査技師学校廃止

4月 ● 輸血部設置

49年（1974）4月 ● 医用材料学講座設置分娩部設置

事務部が総務課、管理課および医事課の3課制となる

50年（1975）4月 ● 助産婦学校廃止 医療技術短期大学設置（看護科、専攻科助産学特別専攻）

51年（1976）5月 ● 看護部設置

10月 ● 形成外科診療開始（1987年5月 形成外科学講座設置） 狂犬病治療室を小児予防接種治療室に改称

52年（1977）4月 ● 看護学校廃止

10月 ● 核医学科診療開始（1976年4月 核医学講座設置）

53年（1978）3月 ● RI診療棟竣工

4月 ● 医学部附属臨床検査技師学校廃止

10月 ● 人工腎臓室を人工腎臓部に改称

55年（1980）3月 ● ライナック治療室竣工

4月 ● 病理部設置 医用高分子研究センター設置（医用材料学講座廃止）

9月 ● 神経内科診療開始（1979年4月 神経内科学講座設置）

56年（1981）4月 ● 栄養治療室を病態栄養部に改称

57年（1982）3月 ● ベビーサイクロトン室完成

4月 ● 心臓血管外科診療開始（1981年4月 心臓血管外科学講座設置）

中央情報処理部を医療情報部に改称

58年（1983）12月 ● 放射線部に放射線治療部門を設置

59年（1984）4月 ● 臨床検査医学講座設置

60年（1985）3月 ● MR棟竣工、皮膚病特別研究施設廃止

4月 ● 分子病診療学講座設置

61年（1986）4月 ● 集中治療部設置

62年（1987）10月 ● 第一臨床研究棟竣工

11月 ● 内科系総合病棟竣工

63年（1988）3月 ● 精神科神経科棟竣工

63年（1988）6月 ● 医療法承認病床数1,080床になる

64年（1989）5月 ● デイ・ケア診療部設置

平成 2年（1990）6月 ● 脳病態生理学講座設置 医用高分子研究センターを生体医療工学研究センターに改称

3年（1991）4月 ● 光学医療診療部設置

4年（1992）1月 ● 中央診療施設棟、第二臨床研究棟を竣工



外来診療棟



医科大学附属医院本館



小児科病舎回診

- 平成** 4年（1992）4月 ● 臨床代謝栄養学講座設置
- 5年（1993）4月 ● 総合診療部設置
- 6年（1994）8月 ● 医療廃棄物焼却炉竣工
- 7年（1995）6月 ● 内科系総合病棟を北病棟に、外科系総合病棟を南病棟に、精神科神経科病棟を西病棟に改称
- 8年（1996）4月 ● 院内学級開設 消化器内科、病態栄養部、移植外科で診療開始
（1994年6月 消化器病態学講座、病態代謝栄養学講座を設置、1995年4月 移植免疫医学講座設置）
- 9年（1997）4月 ● ボランティア制度導入
- 10年（1998）4月 ● 胸部疾患研究所附属病院と統合（病棟の名称は南西病棟とする）
呼吸器内科、感染症科、呼吸器外科で診療開始
大診療科制の導入により、第一内科、第二内科、第三内科、消化器内科、呼吸器内科、感染症科は内科に改称
第一外科、第二外科、移植外科は外科に改称
事務部が総務課、管理課、医事課および企画室の3課1室制となる
医療法承認病床数1,240床になる
- 11年（1999）4月 ● 臓器移植医療部設置
- 12年（2000）1月 ● デイ・サージャリー診療部設置 新外来診療棟竣工 臓器別診療体制による診療を開始
10月 ● 地域ネットワーク医療部設置
- 13年（2001）3月 ● 遺伝子診療部設置
4月 ● 副病院長制度導入、探索医療センター、医療安全管理室を設置
- 14年（2002）7月 ● 老年科、神経内科を内科に統合
内科の専門診療科として、血液・腫瘍内科、内分泌・代謝内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、
免疫・膠原病内科、老年内科、糖尿病・栄養内科、総合診療科、神経内科、腎臓内科を設置
10月 ● ME機器センター、分子細胞治療センター、感染制御部を設置
12月 ● 治験管理センター設置
- 15年（2003）1月 ● 卒後臨床研修センター設置
3月 ● 中央診療部門を統合再編し、中央診療センター設置
4月 ● 病院長補佐制度導入
経営企画部、女性のこころとからだの相談室を設置
10月 ● 外来化学療法部設置
- 16年（2004）4月 ● 医療開発管理部設置
6月 ● 看護実践開発センター設置
10月 ● 新病院整備推進室設置
- 17年（2005）4月 ● 病院執行部、病院運営企画室を設置（経営企画部廃止）
総合臨床教育・研修センター設置（看護実践開発センター廃止）
事務部が総務課、経営管理課、経理・調達課、医務課、医療サービス課の5課制となる
10月 ● 医療法承認病床数1,220床になる
12月 ● 黄斑疾患治療センター設置
- 18年（2006）4月 ● 敷地内全面禁煙の実施
診療報酬業務センター、外来事務センター、安全衛生管理室を設置
外科の専門診療科として消化管外科、乳腺外科、肝胆膵・移植外科、小児外科を設置
放射線科、核医学科を統合再編し、放射線科として、放射線治療科と放射線診断科を設置
事務部に新病院整備推進室を設け5課1室制となる
6月 ● 心臓血管疾患集中治療部設置
医療法承認病床数1,182床になる
11月 ● 病歴管理室設置

- 平成** 19年（2007）4月 ● 中央診療センターの見直しにより、産科分娩部が周産母子診療部に、病態栄養部が疾患栄養治療部に、理学療法部、デイ・ケア診療部がリハビリテーション部に、光学医療診療部が内視鏡部に、病理部が病理診断部に、分子細胞治療センターが輸血細胞治療部に、材料部、ME機器センターが医療器材部に再編
がんセンター設置
- 21年（2009）1月 ● デイ・ケア診療部を設置
- 22年（2010）3月 ● 積貞棟竣工
12月 ● 南西病棟廃止
- 23年（2011）1月 ● 医療法承認病床数1,121床になる
2月 ● 高度治療部、リウマチセンターを設置
6月 ● 先端医療機器開発・臨床研究センター竣工
9月 ● 脳卒中診療部設置
12月 ● iPS細胞臨床開発部設置
- 24年（2012）4月 ● 病理診断部を病理部に再編 リハビリテーション科、病理診断科を設置
- 25年（2013）4月 ● がん薬物治療科設置
探索医療センター、治験管理センター、医学研究科EBM研究センター、医療開発管理部を統合し、
臨床研究総合センターを設置
6月 ● 診療報酬業務センターを診療報酬センターに改称
9月 ● 内分泌・代謝内科と糖尿病・栄養内科を統合し、糖尿病・内分泌・栄養内科を設置
- 26年（2014）4月 ● 高齢者医療ユニット設置（老年内科廃止） 臨床心理室設置
10月 ● 緩和医療科設置
11月 ● デイ・サージャリー診療部を手術部に統合
- 27年（2015）3月 ● 高度治療部廃止
4月 ● 先制医療・生活習慣病研究センター設置
5月 ● ベッドコントロールセンター設置
7月 ● 看護職キャリアパス支援センター設置
11月 ● 南病棟を旧南病棟に改称
12月 ● 南病棟竣工
- 28年（2016）1月 ● もやもや病支援センター、高度生殖医療センターを設置
4月 ● 漢方診療ユニット設置
6月 ● 母体胎児集中治療部（MFICU）設置
- 29年（2017）3月 ● 医療法上の臨床研究中核病院に指定
11月 ● クリニカルバイオバンクセンター設置
12月 ● 血液・腫瘍内科を血液内科に改称、がん薬物治療科を腫瘍内科に改称
- 30年（2018）3月 ● 頭蓋底腫瘍センター設置
「ISO9001：2015」認証取得
4月 ● 相談支援センター設置、がんゲノム医療中核拠点病院に指定
クリニカルバイオバンクセンターをクリニカルバイオリソースセンターに改称
6月 ● 神経内科を脳神経内科に改称
11月 ● てんかん診療支援センター設置
- 31年（2019）4月 ● 患者総合サポートセンター設置
周産母子診療部、新生児集中治療部、母体胎児集中治療部を統合し、総合周産期母子医療センターを設置
- 令和** 元年（2019）8月 ● 輸血細胞治療部を検査部に再編
児童思春期こころの相談センター、細胞療法センターを設置
9月 ● 中病棟、次世代医療・iPS細胞治療研究センター棟を竣工



先端医療機器開発・臨床研究センター



中病棟、次世代医療・iPS細胞治療研究センター

令和 2年（2020）4月 ● 内科、外科、放射線科の大診療科制を廃止 臨床研究総合センターを先端医療機器開発機構に改称
医療法承認病床数1,141床になる

5月 ● 早期医療開発科を設置

7月 ● 京都大学医学部附属病院としてのロゴマークを制定

3年（2021）1月 ● こども医療センターを設置

3月 ● VHL病センターを設置

4月 ● 相談支援センターを廃止

7月 ● 戦略・広報室を設置

11月 ● 西病棟廃止 病院東構内へ診療機能を集約
結核病棟竣工

4年（2022）1月 ● ベッドコントロールセンターを病床運営管理部へ改称

4月 ● 摂食嚥下診療センター、脳卒中療養支援センターを設置 高圧酸素治療室を高気圧酸素治療センターへ改称

7月 ● 小児集中治療センターを設置

9月 ● 病床運営管理部、患者サポートセンター、地域ネットワーク医療部を統合し、PFMセンターを設置

11月 ● アレルギーセンター、ビジネスディベロップメント室を設置

5年（2023）3月 ● 京都大学医学部附属病院としてのマスコットキャラクターを制定

● EHR利用推進センターを廃止

KU:IP 京都大学医学部附属病院
KYOTO UNIVERSITY HOSPITAL

ロゴマーク



マスコットキャラクター